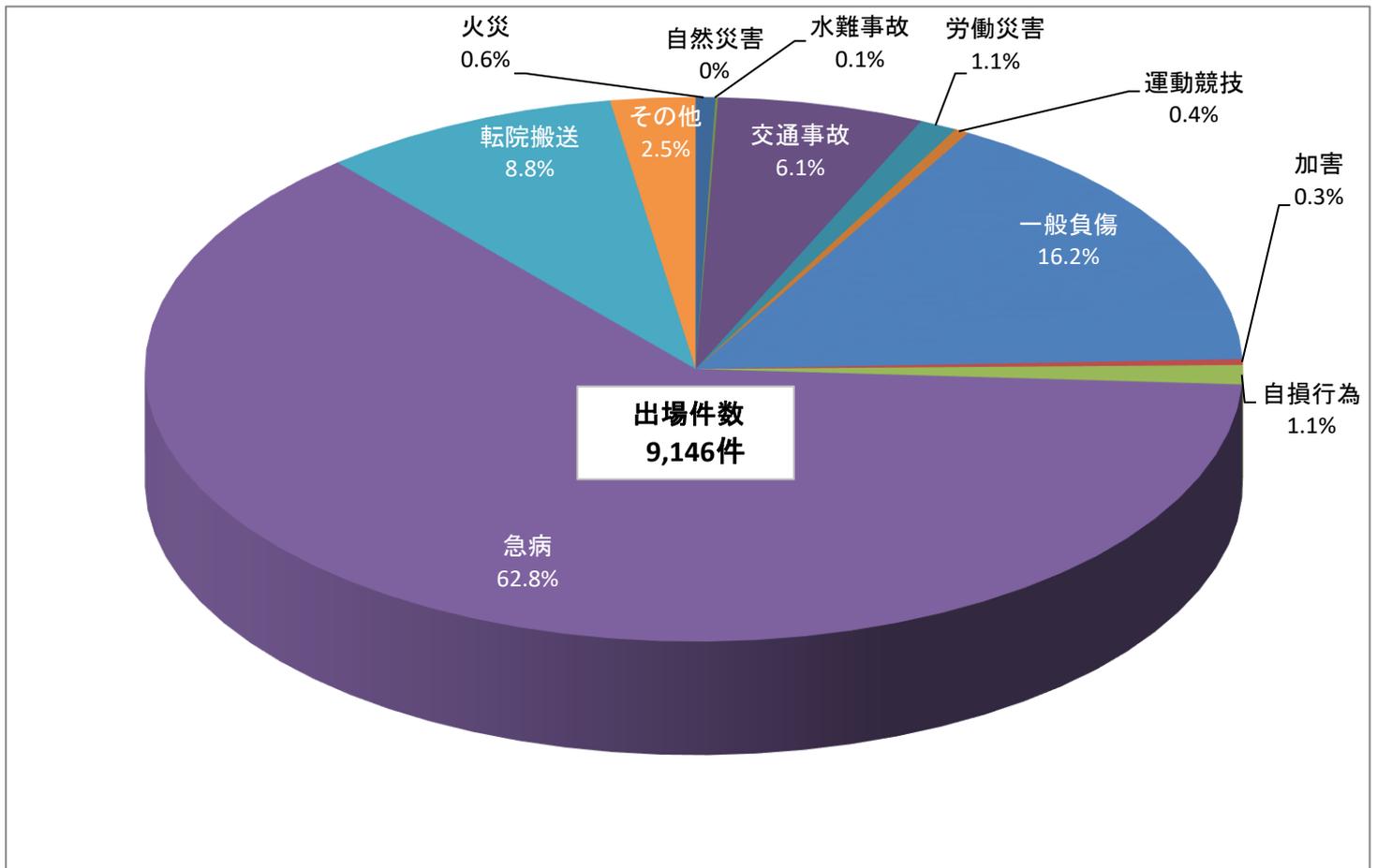


令和2年の救急出場件数(グラフ)



・事故種別ごとによる出場件数で最も多い「急病」は5,745件で、全体の62.8%を占め、次いで「一般負傷」が1,478件で16.2%、「転院搬送」が804件で8.8%、「交通事故」が556件で6.1%となっており、令和元年と同様の順位となっています。

また、令和元年の出場件数と比較すると、「火災」、「水難事故」、「労働災害」は微増していますが、それ以外の事故種別については減少しており、特に「急病」、「転院搬送」が大きく減少しています。

3 今後の課題

・令和2年の救急出場件数は、3年ぶりに1万件を下回り、令和元年より949件減少しています。

また、令和2年は全国的に新型コロナウイルス感染症が拡大し緊急事態宣言下の移動規制や、新しい生活様式の意識が高まったこともあり、救急需要は減少傾向となったものと考えられます。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大が続く中、本消防局では、徹底した感染防止対策を講じるとともに、救急車適正利用の普及啓発に取り組み、救命率の向上を図ることが課題となります。